

日本人は“パワースポット”が大好き

日本には、「ご利益がある」と注目されている場所があちこちにある。その場所を人々はパワースポットとよぶ。現在日本の若者、特に女性の間でパワースポット巡りが流行っている。パワースポットには様々な力をもつ神が祀られており、恋愛が成就したり、病気がなおったりすると信じられている。

HP「パワースポット 100 選」というウェブサイトでは、日本全国各地の有名パワースポット 105 箇所を紹介している。その半数は神社や寺などの宗教施設が占める。その中でも最近の若い女性は、恋愛成就の効果があるとされるパワースポット巡りに興味があるようだ。特に話題を集めているのが東京飯田橋にある東京大神宮で、年間来場者数は2万人にも及ぶ。ここは雑誌の「恋愛パワースポットランキング」では常に10位以内にあがる。東京大神宮は人と人との縁を結ぶ神を祀っていることから、縁結びのご利益があるとメディアや口コミによって広がった。

美肌効果があるとして、昔から女性に注目されているパワースポットもある。東京港区の玉鳳寺だ。入口横の地藏堂に祀られている「お化粧地藏尊」を目当てに訪れる人は江戸時代からいと現住職の村山上人は語る。この寺では参詣方法がユニークで、地藏に白粉や口紅、マニキュアなどを塗って祈願するという。

「ご利益がある」と聞けば、神社だろうが寺だろうがどこにでも出かけていく日本人の姿勢は、実は江戸時代から変わっていない。「パワースポットって最近できた言葉だと思われがちですが、実はパワースポットを巡るという習慣は昔からあったんです」と話すのは太田美術館の赤木美智さんである。赤木さんはそのことを知ってもらいたくて、昨年9月、「江戸のパワースポット」という展覧会を開催した。江戸時代の浮世絵師として有名な葛飾北斎の「富嶽三十六景 諸人登山」や、歌川広重の「相州江の島弁財天開帳詣 本宮岩窟の図」など、当時信仰を集めた諸国のパワースポットを描いた浮世絵が多数展示された。また赤木さんは、神社も寺も関係なく「スタンプラリー感覚」で宗教施設を巡る現代の日本人の姿勢は、実は江戸時代から続いていると指摘する。「日本人にとって祈る心とは自然にもっているものなのかも知れませんね。」

日本には「困った時は神頼み」ということわざがある。一方で、日頃宗教を意識せずに

生活している。2008年の読売新聞社の調査によると、何らかの宗教を信じている人は26%にとどまり、信じていない人が72%に上ることからも明らかである。日本人は宗教に対してにぶいという批判的な見方もあれば、だからこそ、特定の宗教にとらわれず寛容だという見方もある。そんな日本人も祈る心は持ち合わせていることは確かなようだ。